資料６

令和７年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

1.趣旨

一畑バス(株)が運行する一部路線と、御津コミュニティバス及び雲南市が運行する大東松江乃木線の運行、松江市地域公共交通利便増進実施計画の策定については、国の補助金である「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」を活用している。

補助金の活用にあたっては、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱第3条第5項の規定に基づき、補助対象事業について協議会で評価を行い、結果を国へ報告する必要がある。

【参考】地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（抜粋）

（協議会）
第３条
５　協議会は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。

2.事業評価(報告書抜粋)

（1）地域間幹線系統補助事業（一畑バス運行路線）

【運行費】

補助対象事業者	事業概要	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	今後の改善点
一畑バス(株)	万原線	財政支出、収支率が目標に達しなかった路線もあるが、事業は適切に実施された。	・目標輸送量249,249人以上に対し実績輸送量は296,377人であった。 ・松江市からの支出を40,783千円以下にする目標に対し42,735千円の実績であった。 ・目標収支率57.27%以上に対し実績収支率は53.14%であった。	・引き続き、バスまつり等の利用促進のイベントを開催し、利用啓発に努める。 ・万原線で松江市交通局と等間隔ダイヤ運行をおこない、利便性向上をはかる。
	恵曇線		・目標輸送量313,773人以上に対し実績輸送量は355,023人であ	

			った。 ・松江市からの支出を 44,521 千円以下にする目標に対し 38,484 千円の実績であった。 ・目標収支率 58.74%以上に対し実績収支率は 57.58 % で あ っ た。	
	玉造線		・目標輸送量 214,246 人以上に対し実績輸送量は 247,880 人であった。 ・松江市からの支出を 21,789 千円以下にする目標に対し 34,456 千円の実績であった。 ・目標収支率 58.82%以上に対し実績収支率は 55.89 % で あ っ た。	

【車両】

補助対象事業者	事業概要	事業実施の適切性	目標・効果の達成状況	今後の改善点
一畑バス(株)	ノンステップバス車両２両の購入	適切に実施された。	計画していたノンステップバス２両を購入した。	引き続きノンステップバスの導入を進める。

(2) 地域内フィーダー系統補助事業

（雲南市民バス・大東松江乃木線、御津コミュニティバス）

補助対象事業者	事業概要	事業実施の適切性	目標・効果の達成状況	今後の改善点
松江市 雲南市	雲南市民バス・大東松江乃木線	適切に実施された。	・1運行当たりの利用者数目標3.0人以上に対し、7.0人であった。 ・松江市からの支出を8,200千円以下にする目標に対し、実績5,700千円であった。 ・収支率9.5%以上の目標に対し、実績収支率9.6%であった。	住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進をはかる。
あいかタクシー	御津コミュニティバス	利用者目標には達成しなかったが、事業は適切に実施された。	・運行期間の利用者目標42,700人に対し、9,730人であった。 ・松江市からの支出を1,700万円以下にする目標に対し、実績1,359万円であった。 ・収支率9.5%以上の目標に対し実績収支率12.8%であった。	運行路線を変更し、利便性向上をはかる。 （朝1便のみ県民会館前行き→全便県民会館前行き）

【御津コミュニティバス】利用者が目標に達しなかった要因（利用者アンケートより）

一畑バスが運行していた路線と比べ、①運行区間が短くなった、②IC カードが使えなくなった、③乗り継ぎが必要となった

(3) 地域公共交通調査等事業（利便増進実施計画策定）

事業の概要	事業実施の適切性	利便増進事業の方向性
松江市地域公共交通利便増進実施計画策定調査業務 （復建調査設計(株)に委託） 【事業内容】 ・公共交通ネットワークの再構築の整理 ・公共交通サービスの検討 ・支援策の検討　ほか	適切に実施された。	計画（案）のとおり 事業Ⅰ：幹線・支線の維持・確保に資する路線再編 事業Ⅱ：運針及び運行時刻の設定など、運送条件の改善を図る事業 事業Ⅲ：路線再編または運送条件の改善とあわせて実施する利用環境の改善を図る事業